

シリーズ第4回 四万十町 「重要文化的景観」申出区域

清流通信読者の皆様こんにちは。今月の『重要文化的景観』の各市町レポートは四万十町からです。

↓旧大正林道（森林軌道）の佐川橋（通称下津井めがね橋）



★ ★ ★
四万十町は、高知県西部、四万十川の中流域に位置し、その流域は梶原川下流の「大正奥四万十区域」、四万十川本流の「四万十川中流区域」、谷底堆積平野の地形にまとまった農地を有する「高南台区域」の3つに区分されています。

四万十川流域は、地形や歴史の違いから各地域の生業や文化に大きな特性が見られますが、いずれも四万十川の清流やその源である森林と大きく関わりながら農山村の景観を形成してきた区域です。

大正奥四万十区域（梶原川下流域）

大正奥四万十区域は、四万十川の清流の源である山林と、その中に点在する山村集落で構成されています。これらの山林は、藩政時代から住民によって管理・活用されてきた林業事業の痕跡を残し、今も「四万十桧」を産出して積極的な林業経営が行われています。それ故に、この山村集落の様相は、四万十川の清流と日本の林業経営の歴史を理解する上で、欠くことのできない景観となっています。

↓山村集落にあった旧竹内家住宅



四万十川中流区域

四万十川中流区域は、林業の繁栄とともに四万十川の流れを介して行われた河川流通を支え、それを生業として関わった人々が暮らしてきた地域で、楮を原料とした仙花紙（泉貨紙）と呼ばれる紙漉きは流域の特産品でもありました。また、四万十川最大の中州・三島は、水運を通じて人と川とが結びつき信仰へとつながった場所であり、現在も中州での耕作という独特な土地利用がされて、四万十川沿いに形成された農村集落の歴史を理解する上で、欠くことのできない景観地となっています。

高南台地区

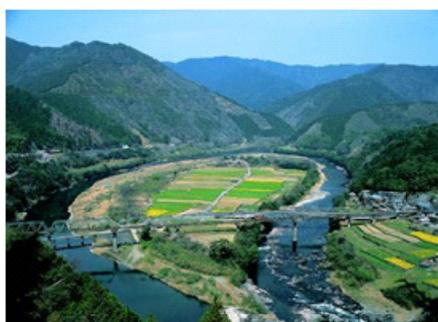
高南台地区は、田園風景が広がり仁井田米に代表される県内有数の穀倉地帯です。本区域は、四万十川本流を水源にした開拓と灌漑によって広大な水田が開かれています。開墾の歴史は灌漑の歴史でもあり、現在も、その堰や堤防、水路といった構成要素がよく残されています。

↓法師ノ越水路トンネル



↑高南台地の灌漑の歴史を物語る。

↓四万十川最大の中州、三島地区



↓今に伝承される十川泉貨紙



*泉貨紙については清流通信139章をご覧ください。